

JA における直近の不祥事件に関する報道

○JA 対馬

元職員の不正流用、17 億円超—JA 対馬、6 億円超が未回収

長崎県対馬市の対馬農業協同組合（JA 対馬）で昨年 1 月、男性元職員＝同 2 月死亡＝による共済金の不正流用が明らかになった問題で、JA 対馬は 29 日までに、流用額が 9 年間で 17 億 7 6 2 1 万円に上ったとの第三者委員会の最終報告書を公表した。6 億 8 8 0 0 万円が回収できない見込みで、2019 年度決算に特別損失として計上する。元職員の刑事告訴も検討している。

JA 対馬によると、元職員は 10～18 年度、自然災害で契約者宅に被害が出たなどと偽って共済金を請求したり、契約者に無断で解約したりするなどの手口を繰り返し、約 2 4 0 0 件の不正をしていた。被害者は 4 7 6 人と 1 3 団体。流用した共済金の使途は確認できなかった。

不正流用は昨年 1 月に発覚。内部調査が行われていた同 2 月、元職員は海中に転落した車から見つかり、死亡が確認された。弁護士らで作る第三者委員会が調査を進めていた。

（出典：2020 年 6 月 29 日 共同通信ニュース）

○JA おおいた

県農協：県農協が業務改善計画 県に提出 相次ぐ不祥事受け / 大分

県農業協同組合（大分市）で現金の着服や窃盗事件などの不祥事が相次いだ問題で、県農協の平間悟理事長は 8 日、コンプライアンスの強化などを盛り込んだ業務改善計画書を県農林水産部の大友進一部長に提出した。県農協は 2020 年 10 月に県から業務改善命令を受けていた。

計画書は、不祥事が続いた東部事業部のなれ合い体質や、内部通報などの制度が十分に機能していなかった点を指摘。不祥事を起こした当事者に厳格な処分を出さずに自主退職させていたことや、本店と事業部の間で意思疎通が円滑ではなかったことが不祥事が続いた原因と分析した。

再発防止策として、なれ合い体質を変えるために 10% 未満だった広域人事異動を、21 年度は 30%、22 年度には 50% に増やすことを掲げた。また、職員が内部通報しやすいように通報する受付窓口を組織内だけでなく、外部の弁護士事務所にも設けることを決めた。

計画書を受け取った大友部長は「不退職の覚悟で計画を進めてほしい」と注文。提出後に記者会見した平間理事長は「職員が一丸となって改善に努め、一日も早く利用者の信頼回復をしたい」と述べた。

（出典：2021 年 2 月 9 日 毎日新聞）